

中国 web 新聞サイトに現れた「青春期」の性の健康情報

(平成 21 年度長野県看護大学特別研究)

研究成果報告書

2010 年 3 月

研究代表者 藤原聡子

長野県看護大学 母性看護学講座

## 研究者一覧

研究代表者 長野県看護大学 母性看護学講座 准教授 藤原聡子

共同研究者 長野県看護大学 母性看護学講座 教授 清水嘉子

長野県看護大学 看護形態機能学 教授 喬炎

母性看護学講座 助教 松原美和

母性看護学講座 助教 赤羽洋子

母性看護学講座 助教 宮澤美知留

母性看護学講座 助教 塩沢綾乃

島根大学医学部看護学科 臨床看護学講座 助教 松浦志保

長野県看護大学 特別研究費内訳

需用費 200000円

役務費 20000円

備品費 240000円

総計460000円

研究成果報告

平成21年度 長野県看護大学研究集会 口述発表

平成21年度 長野県看護大学 第3回公開講座 (H21.12.19)  
テーマ「中国の青春期 90後の現在と親たちの過去」

平成21年度 国際医療福祉大学 「思春期と性」講演  
テーマ「中国の思春期」

## 目次

I はじめに.....	1
II 研究目的.....	1
III 研究方法.....	1
1. Web 記事の内容分類方法.....	1
2. 対象媒体.....	2
3. 中国婦女報と中華女性網の外観.....	2
4. 本研究が根拠としたデータの信頼性について.....	3
IV 青春期、性の健康情報に関する各問題点と中華女性網の視点.....	4
1) 網（ネットに耽る）する子をどうするか？.....	4
2) 女子大学生の性知識不足と公教育における性教育.....	5
3) 少女の望まない妊娠中絶について.....	7
4) 小学生の性教育の始期と方法.....	9
V 結論.....	10
VI 引用・参考文献	



## I はじめに

中国の人々は「思春期」のことを、「青春期」と表記している。WHOは「思春期」を10-19歳までと規定し、中国の「青春期」はその意味で使用されている。

90年代から、「青春期」は、この唐詩以来の伝統的な文学用語の青春にかわって、政策によく登場する言葉になった。<sup>(1)</sup> 21世紀になってからは、性教育の項目を持つ新聞、性教育サイトや保健雑誌などでクローズアップされる言葉となった。ただ、これらのwebサイトや雑誌の「青春期」を扱う内容は、「青春期」の下限の年齢の子どもを持つ親への、子どもの心身の成長に対する啓蒙記事が圧倒的に多く、「青春期」の対象となる、小・中・高・大学生の性行動の実態や、学校内での性教育の内容について、これまで格別に記述されることはなかった。しかし、2001年に修正婚姻法が制定され、2004年に新しい結婚登記条例が施行され、旧制の結婚登記に含まれていた婚姻前健康診査が必ずしも強制ではなくなり、2005年に法定年齢に達した大学生、大学院生間の学生結婚が認められるようになってから、大学生の性行動や性教育などが記事に特集されることが多くなった。

2007年となってから80年代生まれの人々を80后（パーリンホウ）、90年代生まれの人々を90后（ジョーリンホウ）と呼称されるようになった。80后・90后は一人っ子政策開始後から生まれた人々であり、それまでの世代と大きく異なる価値観を持つひとびとである。また、80后は、すでに社会経済の中核を担いつつある世代であり、90后は「青春期」のそのものを体現する年代となって、その成長・ものの考え方や生活消費の動向について、中国メディアも、80・90后が生まれたときから、多大な関心を払っている。

本特別研究では、2000年代後半中国のweb新聞上に現れた思春期の性の健康・教育に関する記事を拾いだし、中国の「青春期」の性情報としてとりまとめてみたい。

## II 研究目的

2006～08年のweb新聞上に掲載された中国思春期の性情報記事を素材とし、中国の親・公教育・政策における、思春期の性の健康を守る取り組みについてあきらかにする。

## III 研究方法

### 1. Web記事の内容分類方法

2006年9月に、中国大陸でよく使われていた検索サイト、雅虎中国・谷歌・搜狐・新浪網等において、「青春期」「性」「教育」のキーワードで検索したweb記事の内容分類を行い、次の4つの事項を抽出した。

- (1) パーソナルコンピューターを使用しつつ、ネット（ネット婚・黄色サイト・ゲーム・ブログを含む、2008年からは携帯電話のショートメッセージの記事も含む）に傾倒し、時間を費やす子供たち

- (2) 女子大学生の性知識不足とその対応
- (3) 望まない妊娠をした少女救援センターの現況
- (4) 小学生の性教育の始期と方法

## 2.対象媒体

1の(1)-(4)の各事項について、その背景や対策を知るため、『中国婦女報』のweb版「中華女性網」の2006年4月～2008年3月までの関連記事を抽出し、分析した。

## 3.中国婦女報と中華女性網の外観

### 1) 中国婦女報発刊の経緯と内容

『中国婦女報』は1984年に全国婦聯の直屬機関新聞として創刊され、女性のさまざまな問題と政府の政策について報道している。ト衛<sup>(2)</sup>によると、中国婦女報は、創刊当時から中国の女兒の性別による不平等の問題をとりあげ、1984年に江西省の壮族自治区巴馬瑶族自治県の小中学校が、男児クラスばかりで女兒が一人もいない(教育を受けていない)事実を報道している。また、1985年には福建省での児童の早婚の事実を伝え、早婚が女兒の小学校の入学率を下げていると指摘し、女兒の教育上の不平等を政府に救済するよう訴えてきた。このような広報活動は、母体の婦聯の活動とあいまって、自治区や県レベル(中国ではいわゆる農村と呼ばれる場所、都市レベルの対極にある)の教育上の男女差別を撤廃することに貢献してきた実績となった。中国婦女報は、2005年から中華女性網というWEBニュースをたちあげ、中国婦女報の記者の記事を保健や新聞などの項目に分けて、サイトにその全記事を提供している。

### 2) 中国婦女報の購読者と発刊形式、内容

毎週6刊(日曜休刊)、年間購読料金は240元。女性のライフサイクル全般と子育て、教育に関わる内容から、読者層は、親世代となったホワイトカラーの女性購読者が多いと予測される。(農民女性向け雑誌記事『農家女』のサイトが、中華女性網のリンクにはられていて、購読層は、ホワイトカラーと農民とで意識的に分けられている)また、中華女性網は、企業広告(医薬品等が多い)と写真をのぞく全記事がテキストファイル形式で収められ、全紙面の構成と写真も無料で閲覧可能である。

2006～2007年度はとくに、中国の最近の政情・政策にもからみ、女性や家庭の健康と教育に関して、青少年の事例の解説を中心とした特色ある記事が取り上げられていた。2008年度は、思春期の子供たちに90后という新しい名称を冠せ、世代論を展開することが見られた。青少年の教育と母子保健に関する政策が2004年から次々と制定・修訂されたことにたいして、中国婦女報がどのような方針でキャンペーンをしているか、以下、その一部を紹介する。

・2003年 新・婚姻登記条例公布（2004年実施）→結婚登記によって血液検査を含む結婚予定男女の身体検査が、強制から任意となり、手続きも簡便となった。一方で、内モンゴルや青海省などで、辺境地域で結婚登記の検査を受けず、妊娠検査も一回も受けない妊婦が、障害を有して出生する胎児の可能性について、2005年～2006年にかけて数度警告している。

・2004年 留守児童2290万、流動児童660万人となる。中国の巨大な経済成長の陰で、都会で働く両親と離れて農村で生活する児童への里親たちによる支援の記事、あるいは、両親とともに都会を彷徨し学籍を失った農村出身児童や思春期の子女たちに、都会での教育機会の提供事例など、数度社説に掲げている。また、外来妹と呼ばれる農村出身の若い少女たちが勤労しながら地域のコンピューター講習を受ける事例を数回紹介し、出稼ぎの少年少女が奨学金を獲得し、苦勞のすえ大学生になることを、実名入りで紹介する。

・2005年 普通高校学生管理規定により、大学生の結婚が許可されたが、実際に大学生の6人部屋における居住スペースでの子育てをする空間は皆無で、現実性が伴わないことを指摘した。

・2006年 新未成年保護法・義務教育法修訂される。義務教育法では、香港での実地例や、実際に小学校から中学校の学費無料、教材無料の原則が守られるのか、有名大学付属の中学校の無試験入学等、一人っ子の親への情報提供を行った。

・2006年 性差による人工妊娠中絶は、超音波胎児性別鑑定が普及し、女児の中絶数が増加したためという人民日報記事を転載し、啓蒙記事を書いた。<sup>(3)</sup>

・2008年10月 《現代中国青年人口発展状況報告》をそのまま転載し、「90后（中国思春期世代）男性の未婚割合は1割。」という見出しで、中国の15-29歳の青年の結婚していない人口割合（1995=51.54%が2005年=65.89%に上昇）、15-35歳の青年の結婚していない人口割合（1995=38.23%が2005年=45.71%上昇）であったことにより、性別比不均衡はすでに正常を逸脱し、未婚男性比増加は国家の発展と社会の調和を脅すと指摘した。

#### 4. 本研究が根拠としたデータの信頼性について

1) 本研究が分析した対象記事は、2006.4～2008.3までの中華女性網、網上閲読 中国婦人報のネット掲載記事である。本研究がデータとした全資料は、その対象データの収集を終えた2009年3月時点で、インターネット上で無料配信されたもので、現在（2010.1）も削除されておらず、誰もが閲覧することが可能である。

2) 研究者が分析した資料について、本文中に引用・分析した順番に番号をつけて、巻末に全文添付をおこなった。

3) データの記事の信頼性に関して、研究者自身が確認できた一例をあげる。

本研究の対象データとして引用した、中華女性網、網上閲読 中国婦人報 ([http://www.china-woman.com/rp/clt/main?fid=clt\\_ReaderFree](http://www.china-woman.com/rp/clt/main?fid=clt_ReaderFree)) の2006年9月18日第5版



「让孩子们从正常渠道获得性知识 成都重视家庭性教育 (06918)」記事が2007年8月18日に開催された『第3回アジア性教育学術会議 (日本、東京、立教大学)』にて報告された「中国四川省小学生性教育現状調査報告」内容と、合致していることが確認できた。保護者の生活子育てに重要な人文学的な基礎研究調査を、リアルタイムで読者に報告提供していることは、中国婦人報の編集方針の特色ではないか、と考える。

4) 記事の初出は中国婦人報のものであるが、本研究が根拠としたデータはファイル化された中華女性網によっている。したがって、各項目の論旨については、中国婦人報の視点ではなく、中華女性網の視点とした。

#### IV 中国「青春期」の性情報に関する各問題点と中華女性網の視点

##### 1) 網癮 (ネットに耽る) する子をどうするか? (4)

(1) この問題に関して、06年4月~07年3月期まで、WEBと思春期の問題についての記事11件あり、以下のような内容であった。

- ①2006年で、中国のWEB総人口 (網民) 1.37億人に 18才以下WEB人口は2300万人 (07年総括記事)
- ②山東省で1万3千名の小中高生を調査し男子学生の56.5%、女子学生の43.5%がネットに接していた。(06年9月における調査記事、また以下の項目はすべて06年)
- ③ネットゲームに耽り、3ヶ月間入浴・髪を洗わない14才女子中学生。(7/31)
- ④ブログの書き込みのために両親と会話をしなくなった15才女子中学生 (10/25)
- ⑤大人社会に流行しているネット婚に興味を持つ小中学生 (11/8)
- ⑥心理学専攻大学生の家教 (8/02) と経験者の電話相談ボランティア (12/20)

2006年から、小中学生の間でネットにアクセスすることが浸透し、家庭内にネット環境を持たない子どもは、网吧 (ネットカフェ) に頻回に出入りするようになった。ネットゲームに耽りブログを行い、親との会話や自分自身の整髪までも放棄するほどのめり込む現象が、性別を問わずみられるようになった。また、ネット婚と呼ばれる仮想空間で、見知らぬもの同士同居し結婚や子育てを行うことが、小中学生の間にまで流行している事象が取り上げられた。子供のこのような様子に大半の親世代が、自分自身がコンピューターに触れる経験を持っていないため、対応に戸惑い、子供を叱り、子供が言うことをきかないために、PC機器を取り上げると、いっそう反抗し、親が手出しできないような暴力で反撃したり、家出をするために、病院の精神科や地域区民委員会に相談にかけこむような事態となった。

2006年度の社説では、「ネットにふける子供たち」を網癮「ネット中毒者」とし、親のみならず社区 (地域による住民管理組織、行政の末端であり、プライマリーヘルスケアも

行う)<sup>(5)</sup>でのネット中毒の矯正が必要としている。注目すべきなのは、ブログや web 自体を悪とせず、子供の知育教育にかかせない道具として、親も勉強し、子育て相談を開設しているサイトを閲覧して、ネットを「良い参謀」にすべきことを訴えている。また対策として、地域のボランティア部門が紹介する、心理学専攻大学生の家庭教師が、ネットとの接し方を子供に指導し、また親が相談するホットラインを地域で開設し、ボランティアが電話相談を受ける事例を紹介している。2007 年末に、政府による大規模な未成年のための有害サイトへのアクセスを禁止するフィルタリングソフトの計画が、始動したことを紹介している。このフィルタリングソフトの記事を最後に、青少年のネットアクセスの具体的被害事例の記事分量は少なくなっている。

### (2) 90 后へのケータイの与え方

07~08 年にかけて、ネットアクセスによる問題は、社説としてとりあげることはなくなるが、90 后のケータイの所持についての記載が登場する。中華網の論点は以下である。

(北京上海のような)大都市の小学生の多くが携帯を所持しているが、ケータイは授業妨害にもなるし、カンニングにも使用される可能性もある。また携帯をもっていない少年たちによる下校時の携帯の強奪事件がおこっている。携帯の多種多様のゲームは時間の浪費であるという説もあるが、親子の連絡手段として、メールというツールの使用は欠かせない、という賛意もある。しかし、こどもが有害サイト接続する可能性があり、さらに携帯という直接身体に(耳に)つけるものは、その電磁波により子供の人体に有害ではないか(視力・免疫システム、睡眠を後退させる)という危惧もある、としている。

### (3) 中華女性網の視点

- ・黄色サイトへの傾倒は(親、社区、公安)の地域ぐるみで阻止する。
- ・両親の「好い参謀」となるサイトの存在もある。
- ・ネットは両刃の剣、禁止すれば、他国の思春期世代に較べ、教育が遅れる、しかし親が点検しないと、子供が危機に陥る。親自身がよくネットを理解し、使い方を子供に教えるべきである。
- ・こどものケータイ所持はいちがいに否定できないが、成熟途上の人体には有害である可能性も否めない

## 2) 女子大学生の性知識不足と公教育における性教育<sup>(6)</sup>

06 年 4 月~07 年 3 月期まで、女子大学生の性知識に関わる記事が全部で 10 件あった。背景として、次の①②③の記事を紹介したい。

### (1) 新結婚登記条例と普通高等学校学生管理規定が大学生に影響したもの

- ① 現在、中国大学の学部生は、総計 2000 余万人、修士・博士生 100 万人
- ② 05 年中国 教育部が学部生結婚を解禁。(普通高等学校学生管理規定) 実施
- ③ 北京市では、06 年度結婚登記中の 30%が大学生の登記だった。(07 年 1 月)

中国の大学の学部生は、総計 2000 余万人、修士・博士生 100 万人に上っている。新『婚姻登記条例』が 2003 年 10 月 1 日から施行され、新条例中、最も大きく変わった点は、単位(職場)または街道委員会(区役所)発行の結婚許可書が不要になったことである。新しい条例では、当事者の有効な身分証明書類、戸籍と身分証明書を持参し、現在独身で、互いに直系血族関係でなく、3 世代以内に姻戚関係がないという宣誓にサインすれば済む。婚前の健康診断も強制ではなくなり、離婚に必要なだった 1 ヶ月以上の審査期間も廃止され、離婚証書は離婚登記の手続きを済ませればすぐに発行されるようになった。普通の人々の結婚手続きが、斯くの如くに簡便になったことを受けて、2005 年中国教育部が普通高等学校学生管理規定を実施し、事実上の学生結婚を解禁した。結果、北京市の 2006 年度全結婚登記中の 30%が大学生による登記となった。結婚した大学生という問題は、単身男女別を基礎とした寄宿舎生活を営む中国の「大学」生活を根底から覆すことになったが、規定の改正により寄宿舎のアメニティがすぐに変わるわけではないし、それまで公教育によって性教育を受けていない女子大生の知識が、結婚解禁を機に刷新するわけでもなかった。

## (2) 超音波胎児鑑別による人工妊娠中絶禁止と女子大生の中絶増加の関係

④⑤の背景は複雑で、中国の性別出生数の男女差が何からおきているのか、と関わるものである。

④ 06 年末、中国西南部某大学で宿舎分娩があり、大学は穏便に対処したという「美談」報道があった。(07 年 1 月)

⑤ 06 年初より、中国衛生部は、男女性別確認後の人工妊娠中絶を不許可とした。厦門市で 16 週以降の中絶は、未婚・計画生育証明書が必要となった。このため女子大学生が小診療所での中絶に走る理由となっている。(06 年 11 月)

06 年末、中国西南部某大学で宿舎での分娩があり、大学は穏便に対処したという「美談」報道があった。この大学生は、なんらかの原因で、望まない妊娠をし、誰にも相談することができずに宿舎で分娩してしまった。ところが、その事実を隠さなかったばかりか、学籍を除籍しなかった(ものとみられる)大学の、穏便な措置に対して話題になったのだと考えられる。

大学生の結婚が教育部の管理規定により、事実上できるようになっても、必ずしも、大学生に性知識があるわけではない。体は充分成熟していても、知識がないための妊娠と、そのための女子大生の妊娠中絶が増加していることも指摘している。

06 年初より、中国衛生局は、男女性別確認後の人工妊娠中絶を不許可とした。(これは、

90 后と、2000 年代前半出生児に、異常な出生別性比差のおきた根本原因が、B スコープによる性差判定による、人口妊娠中絶があったという調査が公開されたことによる) 廈門市では、この結果、中絶をするのに、いわゆる未婚・計画生育証明書(独身証明書)が必要になった。2005 年以前では、法律による結婚可能年齢であっても学生結婚自体がそもそも許されず、また、結婚していないものが妊娠することはあり得ない。したがって、独身証明書など、いかなる理由でも許可されない。これが、女子大学生が小診療所での中絶に走る理由となった(06 年 11 月記事)。

### (3) 女子大学生の知識不足と大学性教育の必修化

⑥大学生のうち未婚・性生活のある学生は 12.07%、未婚・恋人がいる学生は 31.67%。89%の学部生が性教育を望んでいる。(07 年 1 月)

⑦多くの大学では性教育を行わず、生理解剖学の生殖器官の項さえ教師が講義しない。廈門某大学中文系の 4 年次女子学生は、子供は肛門から生まれると思っていた。(06 年 11 月)

女子大学生の性教育を選択科目で、公教育の中で行う必要性について、「わが国の都市部の未婚出産適齢期の女性の人工中絶率は既婚女性よりも高く、そのうちの大きな一部分を占めているのが現役大学生である。人工中絶に至る主な原因は、性的健康の知識に欠けており避妊をしたことがない女子学生がいること、未婚の中絶者のうち 80%がいかなる避妊処置もしておらず、そのうち 23%が避妊方法を知らない」ということを背景にしている。以下、「女子大生の生殖健康科目を必修科目としよう」という題で、06 年 6 月に、以下のように、公教育における性教育のニーズを紹介している。

「多くの女子大学生に健全な生殖の知識を理解させるため、(2006 年) 5 月 31 日夕刻、北京師範大学赤十字会は専門講座を開催した。講座内容に含まれたのは：妊娠と避妊、初・閉経、月経失調症、生理痛・異常妊娠・骨盤炎症などの腹痛症、性感染症などの知識である。記者は現場で、喜んで参加する学生や一部の女子大学院生や若い教師までもがこぞって参加するのを目にした。」としている。

なお、2007 年になって中国の現役女子大生が性教育本を発刊し非常に話題になった。教材を作った女子大生が実名で報道された。日欧で行われているような性の peer カウンセラー教育とでは若干の差異があるのだが、中国の性科学者は、これを中国のはじめての性のピアメンター教育の実例と述べたことが報道された。

### (4) 中華女性網の視点

・女子大学生の性の健康教育を必修課とする。このためには、赤十字の大学学生組織、社区ボランティア(医師、衛生員)の地域資源も協力していく。

### 3) 少女の望まない妊娠中絶について<sup>(7)</sup>

06年4月～07年3月期まで、少女の人工妊娠中絶問題については7件である。

- ① 03年より、北京では3年間で千名の少女が手術及び緊急避妊薬の処方を受けた。  
(06年9月)
- ② 06年、江西省少女の望まない妊娠救助センターでは学生証によって人工妊娠中絶手術費用を免除するとした。雲南省、少女の望まぬ妊娠救助センター、設立1年で、約300数人の少女が訪れた。中学生の割合が年々上昇。しかし妊娠検査のみで手術を予約後、消息がとだえるものもある。(06年9月)
- ③ 未成年者に対し、診察・手術は両親の同伴・署名が必要。センターは心理相談を重視し、フォローするが、同伴した親は子供を打ったりののしったりする。そのため少女は両親と医者との対面を恐れ、センターでの処置を避ける。(06年9月)

「少女意外妊娠」という言葉は、「少女の望まない妊娠」と訳すべきと考える。中国では、1990年に国際連合児童権利公約の批准を行い、子ども、とくに女兒の権利擁護のために、ユニセフ(連合国児童基金会)やフォード社などの企業の寄付金により資金提供され、2003年より全国(北京、上海、杭州ハルピン等)で「少女の望まぬ妊娠救助センター」が設立された。いわばユニセフのお声かがりのできた官製のセンターは、最初の三年間こそ、需要が多かったが、じょじょに誰にも歓迎されなくなった、その原因を探る啓発記事である。

当初、センターに未成年者で妊娠検査の問い合わせなど、非常に多かった。ただし以後の当事者の連絡がとだえ、実際の処置に至る例が非常に少ない。この原因は診察手術に、両親の署名と付き添いが必要であることからである。このような子供に付き添ってきた中国の両親は、医師の手前、まず子供を叱ってみせる。はなはだしい場合は、子供に手をあげる事態となる。これは、人間関係の中でもっとも面子を重んじる中国社会にあっては、おそらく予測される事態であった、と中国女性網は指摘している。いわゆる「官製の救助センター」では、親が子を詰問する裁判のような場所となって、結局は親子双方の面子を失い、またこのような事態を予測する子供が、両親同伴でセンターでの処置を避ける理由となっている。

さらに、「学生証による無料の人工妊娠中絶」という、日本の「学割」に類した、中絶の安易な無料施行への倫理的批判も妥当である。

また、07年3月の、<600人の少女ママに対する調査>報告記事では、ユニセフを通して、この官製救助センターでは、緊急避妊薬の配布も行っているが、少女ママの平均妊娠時年齢17.86歳、で、緊急避妊薬使用したものの21%が妊娠を中絶できていなかった。主要な原因は彼女たちが正しく緊急避妊薬を使えないことにあった、センターを含めて外来での少女たちに対する緊急避妊薬の説明がまったくされないか、不完全であったことをあげている。

前項でのべたとおり、中国では、20才未満の結婚はありえないし、結婚していない人の妊娠もありえない。だからこそ、『少女怀孕不得不说』(2006年9月記事のタイトルで、少女の妊娠は本来あってはならないが、少女の妊娠中絶について、どうしても言わざるを得

ない) 話題として、センターの不具合さを指摘している。07年の12月の関連記事では、このセンターの終末を予感する記事が載っている。

「フフホト市望まない妊娠少女救急センターでの患者受付が2年で10人であった。このセンターでの処置が無料でも、子供が妊娠することが親にとって面子を失うことであるため、救助センターを避け、小さい(闇の)個人診療所を選ぶためと考えられる。また、実際に診療を受けた子供の付き添いは、同級生か男友達で家族・教師はいなかった。救急センターは患者の少なさのために閉鎖された。」

#### 中華女性網の視点

- ・望まない妊娠救急センターでの処置をもっと少女が受けやすくするべきである。
- ・不法診療所での処置はやめさせるべきである。学生証による無料中絶手術は、されるべきではない。
- ・緊急避妊薬使用時の外来の説明を行うべきである

#### 4) 小学生の性教育の始期と方法<sup>(8)</sup>

06年4月～07年3月期まで、小学生の性教育の始期と方法についての関連する記事は4件であった。内容的は以下である。

- ① 小学5・6年で30%あまりの男子、女子にそれぞれ遺精、初潮などの生理現象が見られる。(06年5月)
- ② 青春期は最近では2～3才早まっており、第2次性徴が、10才位から始まる。(06年7月)
- ③ <成都市家庭性教育調査>06年9月 家庭で、10歳前の子供に、性と性の健康について説明できる親は16.9%。子供の「命はどこから来る」という質問に、答えを避け、「河から流れてきた」、「両親が拾った」、「木の股から生まれた」、など非科学的回答をする親は、58%。子供と性を話題に語る親は8.6%であった。

2006年に、北京、成都などの重点大学の付属小中学校で、続けて性意識・性教育に関する親・子・教師の調査が行われ、③の記事を含む内容が、Ⅲの4にもあげたように、2007年8月18日に日本 東京で開催された『第3回アジア性教育学術会議』で報告されている。第2次性徴や思春期の開始時期が繰り上がっていることを背景に、中国の性教育の担い手として、親はもっとも重要であるとみなされているにもかかわらず、その無自覚、また親の方法論のなさを指摘する、啓蒙的な意図をもったデータとして報告している。

しかし、このような親ばかりではなく、親をふくめた地域の取り組みや、地域からの働きかけで、教師の意識が変わっていく、以下に示した事項なども報告されている。

#### ④<小学～高校生のあらたな性教育の試みと動き>

- ・雲南省の社区（地域）の母親達の10年に渉る性教育への様々な試み（教室開催、教材作り）で、教師たちも授業のやり方を考えるようになった。
- ・07.09 寧夏 銀川市 西夏区で、大高専向け性と性の健康生殖教育サイト開設で1万5千回にのぼるヒット数があり、西夏区+寧夏大学で、性の健康巡回講座を小中学生向けに行うことにした。
- ・07.11.20 上海高校生に「愛とはなにか」についての、教師からの投げかけによる、ディスカッション形式の授業が行われた。新聞は「デート教育」と名付け、保護者からは賛否両論の意見があった。

デート教育では、親は自らが性教育の担い手として自覚しているため、小学生の性に対する積極的あるいは革新的な公教育については非常に慎重である。小中学の性教育における実施者と保護者との葛藤については、これからも話題となると考えられる。

#### <中華女性網の視点>

- ・性教育の主たる担当者は親であり、10才より前に始める。親は、平常心でふだんから子供と性を語るべきである。
- ・（現状）我が国の教育体系は一貫して思想品德方面の教育に重きを置き、児童の自己認識を高め自己の生理への理解を手助けする教育は、ほとんど無策である。（06年5月）
- ・雲南省の社区（地域）の母親達の10年に渉る性教育への様々な試み（教室開催、教材作り）があるように、社区と親も一体となって取り組むべきである。

## V 結論

2006年より北京や成都などの大都市の重点大学付属小中学校などで、あいついで親子教師の性意識調査が行われ、親が性教育の主たる担い手と期待されているにもかかわらず、親は子供への性教育の方法論を持っていない実態が、明らかになった。家庭内PCインフラが進み、小・中学が義務教育化する中、公教育における性教育授業は皆無であり、大学進学年齢に達したものについての性知識は不足し、女子大学生に対する性教育授業は必修化とすることが期待されている。また、性教育における人材育成及び方法開発は、保護者を含めた社区（地域）の中で模索されている。小中学生のネット中毒に対して、パソコンにおけるメディアリテラシーを教える心理学専攻大学生の家庭教師、社区単位における母親たちの性教育教材作り、赤十字青年団の性教育ボランティア、大学生による自主的な性教育教材作りなどがあった。社区（地域）が親たちの性教育を指導し補完する役割が、いっそう求められているということが、2006年～2008年までの総括といえる。

## VI 引用・参考文献

※凡例；

たとえば、(070119) は、2007年1月19日の中国婦人報の記事として、中華女性網にアップされたものであることを示す。また、太字は記事の表題。以下同じ。

- (1) 作家の張賢亮は、「青春期」という言葉は、1980年代になってから“初めて”耳にした言葉であるが、「青春」の青春という言葉自体は、当時50余歳だった彼が、6歳ごろから知っていた、と述べている。青春の語について、彼を教授した私塾・小中学の教師達は誰もその意味を教えなかったが、それは「食べる」という動詞同様、自明のことだったからだ、としている。「青春」の青春に限って言えば、現代中国では、20代前半までの意味として使われ、女子大学生から若いOL向け雑誌のキャッチフレーズに、しばしば青春という単語が冠せられていることから窺い知ることができる。
- (2) (ほくえい・中国婦女発展報告 2006年3月出版)
- (3) **(070119) 在中国, 2005年开始男性多于女性, 2020年20~45岁男性比女性多3000万人左右 B 超成出生性别比失调直接原因** 中国妇女报 2005年开始男性多于女性, 按目前增长速度, 2020年20~45岁男性比女性多3000万人左右, 我国出生性别比失调。就此, 中国人口与发展研究中心主任马力专门在《人民日报》撰写文章, 揭示其中原因。他说, 其直接原因是B超的普及, 而深层原因则是父系继承和女儿外嫁的隐性制度, 但根本原因却在于中国社会保障制度不健全。中国人口与发展研究中心主任马力在1月18日出版的《人民日报》上撰文称, 出生性别比失调的深层原因是父系继承和女儿外嫁的隐性制度, 根本原因是中国社会保障制度不健全, 直接原因是B超的普及。文章称, 改革开放之前, 中国出生人口性别比较正常, 但从20世纪80年代开始持续偏高, 逐渐偏离103~107正常值, 违背了生理规律和自然平衡法则。文章说, 中国2005年1%抽样调查为118.58, 个别省份甚至超过130, 迄今没有逆转迹象。文章指出, 中国出生人口性别比偏高问题不仅持续时间长, 而且涉及范围广, 不仅中部地区, 而且东部、西部地区也偏高; 不仅农业人口, 而且非农业人口也偏高。出生性别比长期失衡必然影响总人口性别比: 2005年始, 男性多于女性, 按目前增长速度, 2020年20~45岁男性比女性多3000万人左右, 将带来极大的社会问题。文章分析称, 出生性别比失调的深层原因是父系继承和女儿外嫁的隐性制度, 根本原因是我国社会保障制度不健全, 直接原因是B超的普及。出生性别比失调将导致婚姻市场的挤压, 农村和贫困地区成重灾区, 处于社会底层的低收入人群成为最终受害者。出生性别比偏高将使现代社会婚姻制度和婚姻制度趋于弱化和无序, 引发由性罪错导致的犯罪、拐卖妇女和性交易等社会危机, 直接影响到人民生活质量、妇女社会地位、家庭幸福、公众安全、社会和谐稳定。文章



认为，遏制出生人口性别比升高趋势，必须运用法律、经济等手段，建立健全党政负责、部门配合、群众参与的标本兼治措施。必须建立社会保障及利益导向制度，逐渐减少家庭对子女的依赖程度，给予农村计划生育女儿户奖励和补偿，鼓励男到女家落户；完善保护妇女儿童合法权利的政策，提高妇女社会、经济地位，依法保护妇女的宅基地、房屋等继承和土地承包等权益，依法追究溺弃女婴行为的刑事责任。（据中新网）

2006年7月11日是世界人口日，我国举办人口日活动的主题是“关爱女孩，行动起来”。国务委员兼国务院秘书长华建敏11日在全国关爱女孩行动电视电话会议上强调，务必把深入开展关爱女孩行动、综合治理出生人口性别比偏高问题作为一件大事，列入重要议事日程抓紧抓实。2020年晋将有20多万男光棍 由于出生性别比失衡，到2020年，山西省将有20多万处于婚龄的男青年没有相应的女性配偶。这是2006年7月16日在中国社会学会学术年会上，山西省社科院社会学所副所长谭克俭在报告中提出的。

(4) 本稿は以下5件の記事を分析したものである。

(061025) 博客低龄化考验现代家教 中国妇女报 叁秦王女士说，她的女儿苗苗（化名）今年15岁，初三学生。以前女儿放学回家后，就“粘”在母亲身边，给母亲讲一讲当天学校都发生了什么事情，她又认识了哪个好朋友，她的同桌给她讲了什么搞笑的笑话等。除了每天和母亲谈心外，苗苗也总是跟母亲抢着干家务，主动要求给逛街买东西的母亲做“参谋”，一家人过得其乐融融。可是自从苗苗今年暑假从同学那里学会了写博客以后，整个人都变了。一放学，和父母打声招呼，书包随便一扔，就直接进到自己的房间，打开电脑，开始写博客，不再理睬父母。到了吃饭的时间，往往叫了好几遍，她才放下手中的鼠标，慢腾腾地走出来。吃饭的时候，张口就是她博客的“点击率”，闭口是她博客的“留言率”。

草草地吃完饭，母亲还没有来得及问她的学习和生活，苗苗又回去挖空心思地写她的博客去了。“现在都初三了，学习任务这么紧，她怎么就一点也不着急呢？写博客，就知道写博客，博客的点击率上去了就能考上重点高中？”因为苗苗写博客的事情，母亲王女士伤透了脑筋，但是她还是没有办法管女儿。把网线断了吧，怕女儿因此而不学习，说她两句吧，怕女儿也和其他的孩子一样离家出走。左也不是，右也不是。

(061220) 和睦 理解 宽容 亲情是孩子摆脱网瘾的关键 中国妇女报 王海鹰 家长首先要改变自己，才能改变孩子。从今年8月开始，济南市关工委、团市委联合开展了“戒除网瘾”大型公益活动，招募了50名具有心理教育工作经验的志愿者，与100名网瘾青少年结对救助。志愿者从促进亲子关系、消除思想隔阂入手，一方面缓解家长的焦躁情绪，指导家长采用正确的教育方法，杜绝棍棒、唠叨、虐待，以亲情化解矛盾，另一方面通过电话、电子邮件、家访等形式与网瘾青少年交流。志愿者荣艾玲先后帮助7个休学的网瘾青少年回到学校。今年9月，一对父母找到

她，要求帮助自己的孩子戒除网瘾。这个孩子正读初二，沉迷于网络游戏，学习成绩下降。父亲盛怒之下切断网线，孩子情绪非常激动，不断损坏家中物品。父母曾在其枕头下搜出 2 把刀具，父子关系一时陷入僵局。荣艾玲调查发现，父母忙于生计，很少与孩子交流，便指导其母亲动员孩子的朋友、同学主动与他联系，全面了解孩子的心理状况。一次晚饭后，父亲在征得孩子同意后，与其交流 5 个小时，最后父子抱头痛哭，化解了矛盾，孩子也慢慢摆脱了网瘾困扰。济南市各级关工委和团组织还依托社区，成立了“青少年心理疏导站”“知心畅语工作室”“青苹果聊吧”“快乐成长绿岛”等心理咨询服务机构，对社区网瘾青少年进行心理疏导。目前，该市有 6000 多名志愿者成为心理咨询工作者，大部分街道、社区关工委建立了心理咨询服务机构。这些“没有围墙的心理学校”，化解了大量网瘾问题。

(061108) “网婚”风行中小学 中国妇女报 哲江日前杭州市民何女士诉苦：自己上小学三年级的 10 岁伢儿小宾居然在网上与人“注册结婚”，在网上过起了二人的“夫妻生活”。何女士说，如今小宾更加疯狂地迷恋网络了，与“网妻”过“夫妻生活”已成了每天必修课，即使作业再多，他也会抽时间来陪陪“妻子”与她过半小时以上家庭生活。

当笔者见到小宾时，他说：“我是一个很负责的男人，我也晓得妈妈的一片苦心，但是想到‘妻子’独守‘空房’，我就坐不住了，一天不上网，我就会失眠。”张波说，没有确切的数据显示，到底有多少青少年网民参加了“网婚”游戏，但两个数据可以反映这个游戏在青少年学生中的风行程度：2004 年，有媒体调查数据称，国内参加“网婚”的网民约有 10 万人左右；而 2005 年，上海一家公司推出的“爱情公寓”创办仅一个月左右，目前入住的用户已达到 10 万人左右。其中住户以 13 岁至 16 岁的青少年学生居多，最小的 11 岁。

(060802) 从去年开始，徐汇“第四空间”社工工作站开始募集大学生志愿者做网瘾社区青少年的陪护员，在征得社区青少年同意的前提下，由志愿者陪他们上网。志愿者之一的上海师范大学大三学生潘琳表示，刚开始的时候，孩子们根本不理睬她，任她坐在旁边，自己则自得其乐地上网聊天、打游戏。后来，见陪护对象打魔兽游戏，潘琳试探着说起自己在游戏中的级别。慢慢地，陪护对象开始肯和自己说话、聊天。徐汇区社工站站长娄奇川介绍道，目前，他们已用陪护的方法成功戒除了三例青少年的网瘾。

“所以，在帮助青少年戒除网瘾的过程中，青少年的父母也要有一个改变的过程。”卢湾区社工站站长秦天栋说道，在帮孩子戒网瘾的过程中，他们鼓励孩子的家长最好也能学一些基本的网络知识。

(070612) 儿童用手机隐患多多 如今，在一些大城市，中小學生用手机的现象比较普遍。而在一些管理不善的学校，学生在课堂上使用手机上 QQ 聊天、看电视直播、阅读小说等现象并不鲜见。专家提醒，儿童过早地接触通讯和娱乐工具，会难免沉迷其中，损害他们的身心健康，家长应注意不要让孩子过早使用多功能手机。近

日，佛山市一名正在读六年级的学生透露，他们班所有人都会上网，每个人都有自己的QQ号，男生绝大多数会玩大型游戏如魔兽、打CS等，班上约有二成人有手机。几名六年级学生表示，好多六年级的同学都有手机，但一般不敢带到学校，班上大概只有10多名同学使用手机，都是“偷偷使用”。因为在学校里手机是被禁止携带的，被老师发现了就会被“暂时代为保管”。在佛山市城区的一些学校，初一、初二的学生超过半数的人有手机，MP3的普及率也非常高；部分学校初一、初二有90%的学生都有手机；在小学，三四年级的学生基本上都会上网，五六年级的学生经常上QQ聊天。据了解，目前部分儿童使用的手机不仅有自身携带的简易游戏，而且能通过下载和安装软件，实现移动QQ、移动MSN和上网观看直播球赛等功能。由于大多数MP3或者手机具有阅读功能，小小的显示屏竟然成为许多学生上课时阅读言情小说、武侠小说的平台，也有不少学生在课堂上肆无忌惮地玩手机游戏。一名学生说，除了学习，同学们还经常一起谈论游戏，互联网和手机已经成为他们交流中很重要的一部分了。用手机容易导致沟通障碍 据了解，儿童上网所带来的沟通障碍问题与日俱增。不少孩子在网上能通过文字“夸夸其谈”，而在现实生活中却不懂得与人交往，有些经常出现在校友群的小朋友，往往只记得对方的网名而不知道同学的真实姓名。在家庭沟通中，一些父母与孩子经常采用电话、短信的方式沟通，而忽视了人类最重要的面对面交流。佛山市某心理机构咨询师关舒俊介绍，手机的普及在极大方便人们沟通的同时，也引发了越来越多的沟通障碍。由于利用手机和网络等沟通方式，能减少人际交往中的一些尴尬，是不少小朋友喜欢用手机交流的真正原因。关舒俊指出，在佛山等珠三角富裕地区，由于家长们经常工作繁忙，他们无暇更多地照顾和关心孩子，家庭本身就on容易滋生沟通障碍。这类家庭的孩子更容易沉迷于手机和网络，其中功能越强大、越智能化的手机，越容易使孩子上瘾。应推出儿童专用手机 专家指出，14岁以下的孩子，由于心智并未成熟，本身自控能力比较差，过多接触手机和网络，很容易造成玩手机上瘾和沉迷于游戏中。关舒俊建议，千万不要让儿童使用功能强大的手机。14岁以下的孩子最好不要使用手机。建议给孩子购买一些只能实现通话的简易手机，对于一些“手机上瘾”的孩子，应尽快停止使用这些功能强大的智能化手机。佛山市一些心理机构的专家透露，许多孩子出现了“手机失落症”。一些玩手机上瘾的孩子，手机被强制取消后，表现出明显的不安。心理咨询师指出，为孩子的身心健康成长，家长不宜过早的让孩子使用手机。关舒俊指出，沟通障碍已经成为青少年心理问题最主要的根源，过多的使用手机、网络等工具，将导致儿童在与家长、老师和小朋友之间沟通中存在严重的障碍，最终可能导致心理问题的出现。

**(080108) 给90后配手机应注意什么 中国妇女报** 前不久，有专家在复旦大学新闻学院举行的首届传播与中国复旦论坛上公布了一项关于上海小学生媒介素养的调查报告，结果显示：上海市近一半小学生将手机视为上学必带品，手机、动漫书、游戏机已经荣升为书包中的“重要成员”，并成为90后儿童“最容易想到”的新玩具。

其实，不仅仅是在上海，在全国的许多大城市，拥有手机的小学生越来越多，使用手机、玩手机游戏逐渐成为孩子们的一种时尚。这项调查同时发现，小学生面对媒介负面影响表现得非常被动与无助。那么，小学生到底该不该使用手机？父母对此又该采取什么样的态度呢？

欣欣在北京海淀区的一所小学上小学四年级，最近几天，她总是缠着妈妈要手机，理由是班里好几个同学都有了自己的手机，而且她最要好的同学彤彤还买了带手写功能的手机……

如今，小学生使用手机已越来越普遍。虽然许多学校明令禁止学生将手机带到校园，但学生还是将手机偷偷装进书包，带在身边。小学生该不该使用手机，该不该把手机带到学校？我们不妨听听各方面的声音——

学生：有手机很方便

“我在学校参加了合唱团，我们课后经常有活动，有时是临时通知的，放学时间就从正常的4点半改成了5点或5点半。有了手机，我就能及时地和妈妈联系，告诉她晚一点来接我，不至于让妈妈在学校门口等一个小时。我觉得有手机很方便。”北京海淀区某小学的周楠说。

张羽是一名住校的小学生，每周的后几天觉得特别“难熬”。从三年级起，妈妈给她买了部手机，让她在情绪不好的时候给妈妈打个电话，和妈妈交流一下，获得安慰。“有时我晚上想家、睡不着，就给家里打个电话，和爸爸妈妈聊几句，或者发个短信，心情就好了。放下电话一会儿就能睡着了。”

小王上六年级，他每天把手机带在身边。“我一般把手机放在书包里，放学后才用。课间如果没有老师在，也会拿出来玩一会儿，听听音乐，看看短信、视频，玩会儿游戏什么的，放松一下心情。有了手机吧，我觉得特别方便。有时候需要什么东西，家里没有，就给妈妈打个电话或发个短信，妈妈下班后就能帮我买了，不耽误用。还有，做作业时，不会做的题，一个短信就搞定了。”

也有的孩子表示，“我有手机，但是平时上学父母不让带，学习就是学习，用不着把这么现代化的东西带到学校来，况且学校教学楼里有公用电话，买张电话卡带在身边，如果有急事，打公用电话很方便。但是在学校组织外出的活动时，我常把手机带上，这样便于及时联系老师和家长”。

据了解，大部分拥有手机的小学生，都觉得使用手机非常方便，尤其是便于与父母、同学沟通交流。不过，也有不少同学，不单单把手机看成是通话的工具，而更多地注重手机的其他功能，如拍照、玩游戏等。一位同学说，手机游戏很好玩儿，如果你不会玩儿，同学会觉得你“老土”。追求时尚、满足虚荣心、过分“显摆”也是部分小学生买手机的主要原因。

家长：有利也有弊

北京的刘女士介绍，自己和丈夫平时做生意很忙，不能按时接送孩子上下学，怕女

儿单独走发生意外，便想给她配个手机用。她觉得，现在的生活条件好了，买个手机也没什么。而且这样可以时刻了解孩子的情况，及时作出正确的引导，还可以在遇到孩子遇到困难时帮他一把。另有一些家长认为，手机还可能成为开拓两代人之间交流的新途径。“上月我过生日时，女儿给我发了一条祝福短信。虽然天天见面，但这些话总是不好意思当面讲，收到这条短信我心里感到很温暖，到现在我还把那条短信存在手机里舍不得删呢。”北京西城区的一位小学生家长表示。

有的家长认为过早用手机对小学生不利，家长李先生夫妇平时比较忙，无暇顾及上小学五年级的儿子明明，给他配了一部手机，但不久发现孩子热衷于发短信，看到大人还遮遮掩掩地将手机藏起来。后来，李先生发现儿子手机里有几十条短信，有的竟然是一些成人的“荤段子”，这些“荤段子”都是明明的同学之间互相发着玩的，有的是从他们的父母手机里面偷传出来的，有的是从网上看来的。“本来图着联系方便，没想到反而惹来这么多麻烦，再也不能让他这么早用手机了。”气愤的李先生当场没收了儿子的手机。

还有的家长担心，手机里还有许多五花八门的游戏，有些自控能力差的同学，把手机带到学校后玩起来没完没了，消耗了大量的精力，浪费了大量时间，因而影响了学习。再有，个别有手机的同学四处炫耀，会诱发其他同学的攀比心理，这对小学生的成长也不利。

一位身为医生的家长表示，少年儿童的耳朵和颅骨比成年人更小、更薄，在使用手机时，大脑中吸收的辐射比成年人要高。而孩子的免疫系统也比成人脆弱，手机辐射会对小学生脑部神经造成损害，引起头痛、记忆力减退和睡眠失调。而频繁玩手机游戏视力也有损伤。

但是，更多家长认为，在是否使用手机的问题上，应该具体情况具体对待，由孩子本身的具体需求和家庭的实际情况来决定。

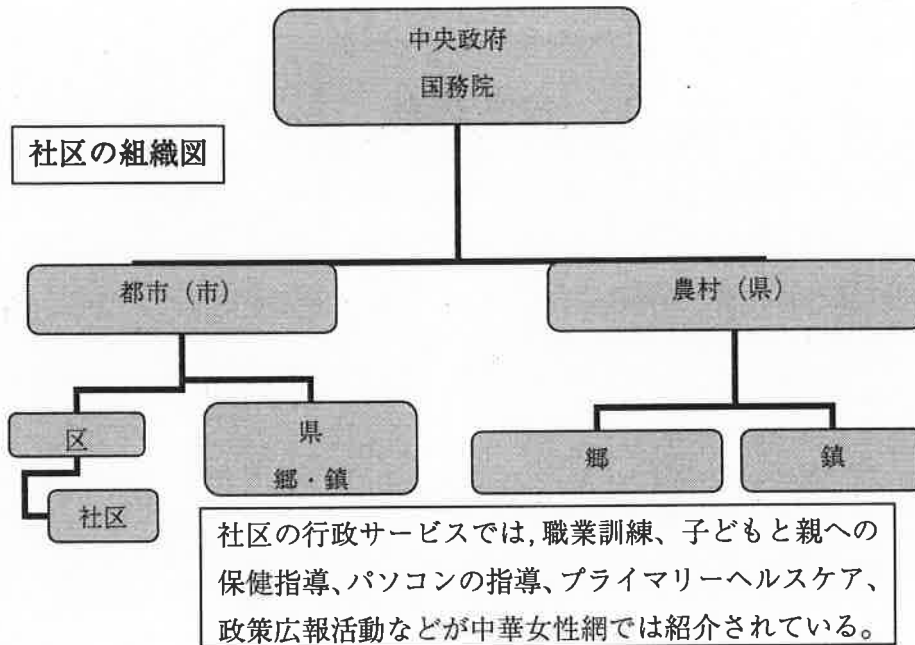
老师：小学生最好不要使用

一些老师曾认为，只要学生带手机不影响到课堂秩序，不公开玩游戏就是“个人”问题。但这个观点被不少学校否认。据报道，天津某小学一名四年级的学生在考试用手机“帮助”成绩差的同学，还和成绩好的同学对答案，这让老师们再度关注小学生是不是应该带手机的问题，甚至认为手机问题对小学生来说也是一个重要的教育问题。

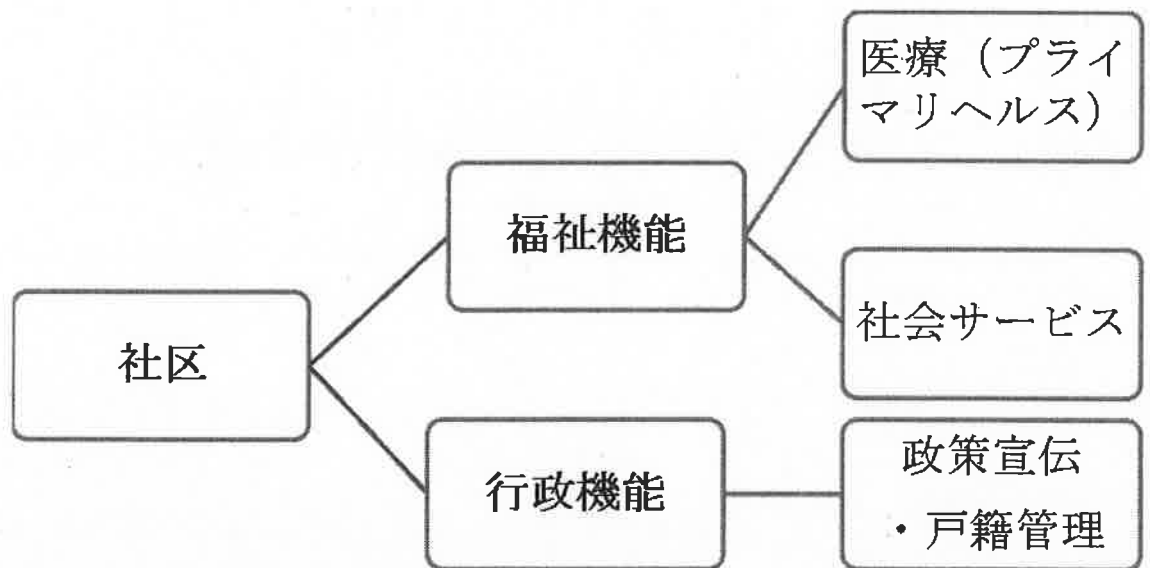
北京海淀区的一所小学的有关负责人表示，很多带手机上小学的小学生在上课时容易忘记关机或者调成静音模式，突然响起的电话铃声很可能让全班同学转移注意力，尤其是不少手机的铃声比较怪异，铃声一响，整个班级都笑成了一锅粥，老师精心准备的一堂课就前功尽弃；还有的同学上课互相发信息，影响了听课效果；而利用手机帮同学作弊，更涉及到孩子的诚实问题。他还介绍，小学生自制能力相对较差，对各种不良短信缺乏甄别力，尤其目前手机诈骗时有发生，小学生一不小心回复，就有可能上当受骗，给家长造成巨大的经济负担。因此，在孩子们心智尚未发育成熟的时候，尽量少让他们接触这类工具。另外，有些学生因在上、下学路上使用手机而被抢劫的事件也时有发生，给孩子带来了安全隐患。

一些老师认为，手机有利也有弊，它可以是生活的好助手，也可以成为学习的干扰者，关键在于学生怎么合理地去用它，但是，因为小学生的自制力相对较低，所以把手机带到学校，基本是弊大于利，这也是很多学校禁止带手机的主要原因。让孩子明白手机只是一个联络工具，这是一个需要长期引导的过程。（小尘）

(5) 社区についての概念は、王文亮（現代中国の社会と福祉、ミネルヴァ書房、王文亮著）によると、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトを併せ持った組織と規定している。以下、農村と都市での社区の位置を示す組織図を示す。



以下は、社区の行政機能と福祉機能を示した図



(6) (070108) 大学生结婚：玫瑰好看不好折 中国妇女报 记者史玉根 2006 年底，北京海淀区民政局婚姻登记负责人透露，2006 年新人登记结婚中，在校大学生占了近 30%，其中研究生占大多数，但本科生结婚比往年明显增多。一年前，即教育部解除大学生结婚禁令前后，人们还在讨论在校学生应该不应该结婚的问题，如今已然有众多大学生急切地步入“围城”，他们的学习、生活状况如何？学校和政府部门有相应措施吗？记者进行了一番调查。

婚姻登记处：本科生比往年增多

北京海淀区有 50 多所高校，这里的学生动态可以视为全国高校学生生活的晴雨表。

2006 年 12 月，该区民政局婚姻登记处主任陈茹向媒体透露，当年有 3 万对新人登记结婚，其中近 30% 是在校学生，这个数字令人咋舌。这个数字是否有水分？具体构成如何？

陈茹近日接受本报记者采访时一再表示，他们只是粗略统计。她说，登记结婚的在校学生中大多数是硕士和博士，本科生不是很多，但和往年比肯定是增多了。“根据新婚姻法，现在大学生结婚，只要带着集体户口卡和身份证，证明自己达到了法定结婚年龄就可以登记，不再需要学校介绍信。”

已婚学生：有快乐更有烦恼

记者颇费周折找到了一对已婚在校生，他们是在本科期间登记结婚的，如今在校攻读硕士。

今年 25 岁的清华大学在读硕士小于是是在女方父母催促下，于 2005 年 10 月结婚的，妻子小杨比他大两岁。婚后，他们在清华大学附近租了一套住房，每月房租 1300 元。小杨在北京找了一份工作。用人单位知道她已结婚，要她保证 3 年内不怀孕，并写下书面协议。后来小杨望まぬ怀孕，父母不让她打掉，便决定生下小孩，结果被单位发现后辞退。

没有了经济收入，他们只好把房子退了，小于搬回学校学生宿舍，小杨回了内蒙古的娘家。

“这叫转嫁经济危机，实在没办法。”小于说，他打算等妻子生完孩子，找到稳定工作后，再把她接回北京，重新组织小家庭。“对我来说，结婚的烦恼远远多于快乐！不过，我们结

婚是考虑好的，不抱怨什么。当然，如果学校能给我们已婚学生一间宿舍就好，出点钱也可以，只要比在外面租房子便宜就行。”

校方态度：不反对也不提倡

记者从一些高校的网站了解到，教育部新的《普通高等学校学生管理规定》实施后，学校制定的有关规定中已看不到“在校期间擅自结婚的学生，做退学处理”的条例。那么，“解禁”之后出现的相关问题，学校是否考虑，并有相关对策呢？

许多高校有关负责人日前接受采访时均表示，大学生结婚解禁了，但绝对不提倡。针对大学生夫妇婚姻生活涉及的各个方面，包括，“夫妻房”、“产假”、“计生教育”等诸多问题，他们的回答大同小异：没有优惠待遇！

(070108) 高校性教育莫成“灰白地带” 中国妇女报 魏萍 一项统计调查发现：我国一些城市未婚育龄女性的人工流产率已高于已婚妇女，其中很大一部分是在校大学生；大学生中未婚有性生活的学生占 12.07%，学生中未婚但有男女朋友的占 31.67%。而与此相对的是，大多数学生对常见避孕方法了解得很少，专家认为加强避孕知识等教育刻不容缓

不久前，在西南某大学校园里，一桩“大学生宿舍分娩”的新闻不胫而走：该大学某位女学生在自己和家人均不知情的情况下，由于突感腹部不适，来不及去医院，仓促之中在宿舍里产下婴儿……这本来是一件值得深思的事，但当地媒体一味津津乐道“学校人性化处理接产，并未对该学生作出任何处理”等，使这件事一时间传为“美谈”。记者从全国妇联了解到，统计显示：我国有些城市未婚育龄女性的人工流产率已高于已婚妇女，其中很大一部分是在校学生。导致人工流产的主要原因是一些女学生缺乏性健康知识，未采取避孕措施。未婚人流者中有 80%没有采取任何避孕措施，其中有 23%不懂得避孕。

与

湖北省性学会理事长、华中科技大学同济医学院生殖医学教授熊承良说，他们近期开展的抽样调查显示，大学生中未婚有性生活的学生占 12.07%，学生中未婚但有男女朋友的占 31.67%。另有调查发现：大学生注意两性活动、自己的身体和外表，对异性产生好感和兴趣，容易被异性吸引并喜欢交异性朋友。调查表明，有 61%的大学生有性梦，42%的大学生有手淫，46%的大学生与异性相处有性冲动。熊教授说，这些大学生性知识贫乏，多数是通过“自学”或无师自通的，89%的大学生渴望了解更多的性知识，希望能配备专门的指导老师并得到指导。北京大学医学部李爱兰等对北京市 5 所高校的 1310 名大学生进行问卷调查显示，大多数学生对常见避孕手段的使用方法了解得很少，例如不知道如何正确使用避孕套，如何准确推算安全期，知道紧急避孕的学生人数极少。

据了解，目前我国高校在校本科生人数 2000 多万，在校研究生 100 万，2010 年在校本科生人数将达 3000 万。有关专家指出，这一不断庞大的群体在避孕节育方面暴露出来的问题日趋严重，应当引起政府和有关部门的关注。

校园性教育：一个灰白地带

记者在采访中发现，大学校园内的爱情常常在遇到性问题时得不到及时和正确的帮助，这是



很多校园恋人的困惑。大学校园内的性教育，远远落后于学生们的需要，甚至是一个似有却无的“灰白地带”。

张玫玫老师说，我也常常碰到有同学问一些有关性的具体问题，可他们都先说“是帮我的朋友问”之类的话，这样就难以深入沟通和具体指导了。

性教育在高校如何开展才能更“对症下药”？熊教授谈了几点：问题之一，课程教育是作为必修课还是选修课？我们认为在有条件的高校可开必修课，没有条件的高校可开选修课，同时辅以避孕节育的专题讲座，才能满足不同人群的需求。问题之二，教材如何编写？教材的编写包括内容的取舍、课时的安排，是否根据选修课和必修课的不同以及给学生在哪一学期开课的时间不同来定。我们认为教材中既应体现医学教育也应有道德教育内容，两者相互融合、同时推出。问题之三，何时进行避孕节育知识的教育？入学第一学期接受避孕节育和生殖健康知识较其他时间更好一些，无论理、工、医、农、文、艺术和体育类的学生，接受避孕节育知识的教育其起点是一样的。其实这类知识在中学时代就应该掌握的，进入大学讲授有点晚了，但早开比晚开好。刚进入高校的学生因为面临性的躁动和诱惑以及对性知识的缺乏，可能会犯“性医学上的错误”，但随着年龄的增长，有的学生开始交异性朋友，有的可能租房同居，甚至结婚，上述种种原因让我们觉得这种教育宜早不宜晚。

学生计划生育：一个新盲区

有关专家指出，随着高校学生人数的增加和高校结婚政策的放开，在校大学生成为一支巨大而被人们忽视的生育人群，也是一支极易造成避孕失败行人流手术的高危人群。根据抽样调查显示，有 11.76% 的学生已婚，尽管目前已婚的主要是研究生，但有性行为的学生人数也不可忽视。避孕、防病等相关知识如果跟不上，势必会造成一个计划生育和预防艾滋病的新盲区。

专家谈到，在欧美等发达国家，学生在中学阶段就已接受了良好的性知识和避孕方法的教育，大学在读的学生基本能掌握 6 种避孕方法。而我国中学教育中尽管有生物课程，但很少有学校主动安排老师讲授这门课，即便有老师讲授这门课程，当讲到该内容时不是绕道就是就此打住不予讲解。学生无法从课本中获得正确的避孕节育知识。

有关专家指出，要加强的不仅仅是“性教育”。加强和改进大学生的思想政治教育，也是其中的重要一环。目前，大学生同居及婚前性行为已是一个不争的事实，在高校较为普遍。此外，越来越多的女生因避孕失败导致人流手术，使女生的身心健康受到极大的影响。教育部门、卫生部门等，应当考虑通过避孕节育知识的教育、道德教育以及避孕服务的提供，来减少婚前性行为，最大程度降低在校女生的人流率，避免校园再发生类似的尴尬事件

(070116) 性教育教材女大学生同龄性教育尝试褒贬不一 新华社 记者李春惠 贵州民族学院新闻系四年级女生王蓓，历时 1 年半编写了 12 万字的性教育读本，即将由江苏文艺出版社以《玫皮书—性成长自助手本》为书名出版。其实，此书虽尚未问世，但手抄本、打印本就已在同学中传阅，从而也在学生、家长、教师和性教育工作者中引起了各种争论。王蓓，这位贵州民族学院新闻系四年级女生，在大三时，就已编写完一本性教育读本。王蓓：没想到影响这么大王蓓说，她最先只是凭兴趣收集知识、事例、观点，编写

《孕育篇》给自己和好朋友看，并没有写成性知识读本打算。后来发现大家普遍缺乏自我保护的意识，于是又搜集材料写《自我保护篇》。然后发现要做的太多，干脆想，不如自己编写一本适合大学生的性教育读本，那时候她刚升大二。始料不及的是，读本刚完成，手抄本、打印本就在同学中争相传阅，甚至有省外大学生跟她联系，希望看到读本。“没想到会有这么大的影响，还被出版社看中了。”王蓓说。家长：“不要让她丢人了”王蓓的父亲听说她在编写性教育读本后，慌忙打电话给王蓓的奶奶：“这丫头要写性教育？快劝住她，不要让她丢人了。”部分同学、老师、家长对她的做法嗤之以鼻，认为她不务正业，有伤风化，也没有能力去做性教育。还有一些人知道后故意骚扰她。“一些人对性的理解过于狭隘。其实性知识不等于性经历，也不等于性经验。有的人经验丰富，但是仍然不懂得保护自己，不懂得道德约束。”王蓓说。支持者：同龄教育的可贵尝试 江苏文艺出版社负责此书的责任编辑于奎潮认为，这是一本可弥补以往课堂教育不足的青春指导书。重庆商学院一位女生专程从重庆赶到贵阳和王蓓沟通。她说，读本就像一个知心朋友，“我再也不会去犯愚蠢的错误了……”北京大学医学部医学心理学教研室主任、博士生导师、中国性学会常务副理事长兼秘书长胡佩诚教授说，大三女生编写性教育读本，是一次“同龄教育”的可贵尝试。胡佩诚说，从专业的角度来看，读本还存在不足，比如学理的规范性不足，内容的归类、结构安排也不尽合理。但这些不足又是和本书的特点、优点联系在一起的，不必求全责备。反对者：可能会误导 贵州民族学院教师杨再勇认为，王蓓从自身和同学的成长经历写起，有感染力和说服力，但读本中有些观念与教育价值取向相冲突，当学生没有完全理解、掌握读本的精神实质时，容易受暗示，可能会误导。据介绍，人们对王蓓编写性教育读本的争议主要集中在以下方面：作者写作意图，是真正想做有益的事情还是为出名？作者写作能力，是自力更生还是东拼西凑？作者写作资格，是确有见地还是冒充行家？读本内容是科学可靠还是胡编乱造？“对性知识教育问题，整个社会还在探讨之中，我只是一个大学生，或许不能给出完美答案，但是希望与大家一起思考。”王蓓回应。

#### (7) (060904) 少女意外怀孕人数上升

8月27日，一名16岁少女来到云南省少女意外怀孕救助中心咨询检查，得知自己已经怀孕6个月后，预约好了手术时间，可之后却又消失，医院的医生多次寻找却始终未能联系到这个女孩。

这种情况在该中心已经不为鲜见。8月28日，记者在该中心采访时得知，近年来意外怀孕少女的人数出现明显上升，年龄多在13至18岁之间，中心成立1年多来接到了数千个咨询电话，前来就诊的少女约300多人，在校中学生的比例逐年上升。尽管中心有意为这些意外怀孕的少女减少伤害，并在就医环境的改善、人性化服务和心理疏导方面做了许多有益的尝试，但“问的多，来的少”一直是中心面对的现实，相对于健康而言，需要救助的少女及其父母似乎更看中“名誉”。

据中心企划部的冉经理介绍，由于少女还是未成年人，因此就诊和手术都需要有父母陪

同并签字，很多女孩由于害怕面对医生和父母，选择了到一些不需要暴露真名的小诊所做人工流产手术，留下了诸如术后感染等一系列的健康隐患，严重的甚至将导致终身不孕。

冉经理说，鉴于少女所需要的特殊保护，救助中心十分重视心理辅导工作，尤其是对那些必须由父母签字才能手术的未成年少女，还必须对家长进行心理辅导。但有的父母不仅不配合，而且对孩子又打又骂。两天前，有位母亲在得知自己的女儿望まぬ怀孕已经足月快要生产，需要自己签字手术时当即晕倒，作为母亲，她竟然在女儿受孕的几个月中都没有发现女儿隆起的肚子！中心的王医生认为，家长疏忽与对性知识的避讳，是孩子最终受到伤害的一个主要原因。面对孩子的意外怀孕，很多父母首先考虑的是如何掩人耳目，其次才是采取补救措施。在不得已陪孩子来到中心的家长中，很少见到悉心呵护孩子的，对孩子的打骂和对孩子怀孕事实的避讳代替了此时孩子更需要的关爱。

云南省少女意外怀孕救助中心是由昆明市三家民营医院合作成立的机构，得到了相关部门、1的支持和政策上的倾斜。中心成立之初，有人觉得专设这样的一个机构，有助长未成年人偷吃禁果的嫌疑。中心负责人向记者表示，要避免望まぬ怀孕的发生，最有效的是教育干预，普及性知识，教会女孩子自我保护。可当事前的干预无法奏效，少女怀孕已经成为事实时，就需要做“亡羊补牢”的工作。设立救助中心，旨在为需要帮助的少女提供一个保护场所，尽快为她们修复身体和心灵的创伤。

记者随后采访了性健康教育专家李晓亮，她认为，社会环境的改善和性健康教育的实现才是治本的良方。一方面黄色段子满天飞，一方面健康的性知识教育无的放矢，而家长自身的保守的观念和对性知识的缺乏，使孩子无法从正常渠道获得跟自己的成长最密切的知识。少女作为受到家庭、学校、社会三重保护的弱势群体，其生命安全权更需要得到特殊的保护，对此，父母应该有理智地认识并担起自己的责任。

#### (070326) 少女妈妈避孕常失败专家提醒紧急避孕药应有“爱心提示”

中国妇女报 魏萍 一项近 600 名“少女妈妈”的调查显示：她们的怀孕平均年龄为 17.86 岁，其中有 21%的“少女妈妈”曾经使用过紧急避孕药，但失败率高达 81.6%。专家指出，造成这一结果的主要原因是她们不会正确使用紧急避孕药，而紧急避孕药的说明含糊不清也是问题之一。

据了解，2005 年全国共出售非处方紧急避孕药物 4000 万盒，但人工流产率却没有显著变化。也就是说，对很多非意愿性妊娠女性来说，紧急避孕药并未发挥其应有的保护作用。专家指出，紧急避孕药不同于一般的口服避孕药，两者间的使用效果和使用方法均有较大差距。紧急避孕药仅对一次未防护的性交有保护作用，有效率低于常规的避孕方法。但在药剂量上，一次紧急避孕的药量相当于 8 天常规短效口服避孕药量，其副作用高于常规避孕药。如果长期使用紧急避孕药，不仅起不到良好的避孕效果，而且会引起女性肠胃不适、内分泌紊乱等不良反应。据上海市计划生育研究所的调查，使用者本身的知识匮乏、缺乏必要的使用指导是导致紧急避孕药效果不佳的重要原因。有 97.61%紧急避孕失败的女性提出，她们在购买紧急避孕药时，没有得到正确的使用指导。另据对 200 名药师的调查显示，仅有 9.19%的药师知道紧急避孕药与一般的口服避孕药之间有区别；能够正确解释紧急避孕药使用方法和注意事

项的药师更少。

专家指出，目前国内外尚无对非处方紧急避孕药的市场后安全性进行研究，而不少紧急避孕药的使用说明书过于简单。因此，建议对紧急避孕药加以“爱心提示”，除指导如何用药外，还应对其原理、与常规口服避孕药的区别和可能产生的危害尽可能说清楚。

**(8) (06918) 让孩子们从正常渠道获得性知识 成都重视家庭性教育** 辛甜 中国妇女报 记者蔡锦旗 成都市一项调查显示：家长在孩子 10 岁前，有意识地与孩子进行性健康沟通的仅为 16.9%，而孩子渴望通过正常渠道获得性健康知识的为 91.7%。有关专家指出，在家庭中父母应该是孩子性教育的主导者

我国长期以来，对青少年的性教育在教育体系中长期被限制在低层面上。一是家长自身对性健康就缺乏理论知识，在家庭成员之间没有形成谈性、谈爱的氛围；二是学校对学生进行科学性知识的普及教育欠缺；三是社会上各种不良文化诱因对孩子们产生的影响。当孩子的性意识萌发后，强烈渴求对性知识的了解，家长和学校没有及时地进行正确的性知识教育，孩子从非正常渠道来获取性知识，进入青春期后仍然对性知识处于一种混沌状态，为此，不少青少年进入了性的误区，影响他们一生的幸福，甚至付出了沉重的代价。

近年来，我国婚前性行为增多、性病和艾滋病趋于低龄化、少女怀孕的增加等问题的出现，使加强青少年性健康教育的工作刻不容缓。

**成都中小學生性知識現狀**

今年，成都市妇联联合市教育局、市青少年性教育研究所组成了项目组，有 1353 名中小學生参加了性知识调查。其中男生 691 名，女生 662 名。

在小学 1、2 年级调查问卷中，让孩子们在人体图片上标识出男女生殖器官，把眼睛、鼻子、手、脚等标识为生殖器官的占 25.1%；未标识的占 13.4%。部分正确的占到 29.5%；全部正确的仅占 32.9%。

12~15 岁孩子对自己生理发育能正确认识的为 31.9%。对生理现象不清楚的男生为 43%、女生为 23.8%；孩子们渴望通过正常渠道获得性健康知识的为 91.7%。

**家长对孩子性教育的现状**

调查设计了“家长是否与孩子进行过谈性话题”、“家长是否了解孩子的生理变化”、“家长在孩子 10 岁以前是否进行过性健康教育”等话题。有 880 名家长参加了问卷调查。家长在孩子 10 岁以前，有意与孩子进行性健康沟通的为 16.9%。大多数家长承认在回答孩子提出的“生命来源的问题”时，选择了回避，给孩子的答案主要有：你是“河水冲来的”、是“爸爸、妈妈在垃圾箱捡到的”、是“树上结的果实掉下来的”等几种不科学回答的为 58%。家长与自己孩子谈性话题的比例为 8.6%，家长了解孩子生理变化的比例为 48%。

**家庭对青少年性健康教育的意义**

有关专家指出，在家庭中，父母应该是孩子性教育的主导者。一是家长在孩子性生理、性心理、性观念、性意识教育中具有天然的优势，如血缘关系使父母能够成为子女倾诉性困扰的对象；二是性教育是具有隐私性质的性问题，在家庭中探讨可以使子女敞开心扉，便于父母更深入的了解孩子存在的性问题，有针对性地对孩子进行性教育；三是家庭在性教育中以“二

对一”甚至“多对一”，比由学校进行性教育“一对多”更具优势。家庭作为孩子获得性健康知识的第一场所，家长作为对孩子进行性教育的最好主体，在孩子成长道路上有着至关重要的作用。

市妇联开展家庭对青少年性教育计划

成都市妇联在实施“家庭性健康教育”计划中，将青少年的性健康教育纳入家长培训课程。一是利用家长学校、社区母亲课堂、“教子有方”等固定公益课堂，有计划地为家长开设“青少年性健康教育”的课程；二是利用“家庭教育专家热线”，由专家、大学生志愿者为家长提供青少年性健康教育的咨询。三是联手当地各类媒体共同开展“家长如何对孩子进行性教育”，有针对性地对广大家长进行指导。

对青少年性教育涵盖性的生理教育、性心理、性道德、性美学甚至伦理、法律等内容，是一个综合性的教育过程，需要家庭、学校、社会的配合，向孩子们传授正确的性知识、呵护孩子的性健康，为孩子们的健康成长保驾护航。

**(060524) 性教育牵手青少年 潸然** 由于青少年的性成熟年龄正逐年提前，据有关卫生保健机构提供的数据显示，在小学五六年级，已有 30%左右的男孩和女孩分别出现遗精、月经初潮等生理现象。然而，我国的教育体系一直以来注重思想品德方面的教育，在帮助学生提高认识自己、完善自己的生理、心理教育上则几乎是空白。即使是一些青春期性教育开展得比较好的学校，对学生也仅限于生理卫生知识的传播，很少涉及性心理问题。

由于青少年缺乏有效的性健康教育，当代青少年的性发育与性心理发展呈现“三性”：青少年性生理发育与性心理发展的不平衡性；性知识来源不系统、不准确，有些甚至是从黄色刊物、网站等不正常渠道了解性；性意识的朦胧性和自我保护意识、自我控制能力方面的薄弱性。为了加强青少年的性教育、性保健知识、增强他们的性防范意识和法律观念，陶冶青少年的道德情操，树立科学的生殖健康观念，防止性病、艾滋病蔓延，中国性学会将于 5 月 25-27 日在济南舜耕国际会展中心举行中国“生殖健康与性教育”科普展。

据展会负责人朱咏梅介绍，这次展览的精华和亮点在于古代性文化中的 560 多件文物珍品，文物展品时间跨度 5000 年，从不同时代介绍人类繁衍生息的性进化和发展历程。展览分为八个部分：人类的性；和谐的性生活；关注男孩；关爱女孩；男性生殖健康；女性生殖保健；性病与艾滋病；避孕节育知情选择。生殖健康展板 98 张，图文并茂、生动形象。她说，这套展板是目前国内首屈一指的精品，也是一流的性教育展板。系统科学地介绍了与人们日常生活密切相关的生殖健康基本知识，特别是青春期自然的生理发育，心理发展的规律及表现，使青少年从开始的蒙眬状态变成理智状态，逐步去提高自己的性适应能力，增强自己的性控制能力，从而促进人格完善，身心健康。届时还请有关专家进行现场讲座和咨询。

据了解，“生殖健康与性教育”科普展览在中国性学会和各地性学会以及各地人口和计划生育部门的支持和配合下，已于 2002 年起先后在广州、深圳、海口、南宁等 16 个城市展出，直接参展人数超过 80 万人。这次还将在全国范围内进行巡回展出。

**(060615) 性教育从娃娃开始** 中国妇女报 文一 调查表明，大多数孩子都愿意从父母那里得到性知识。如果父母采取封闭的态度，或没有心理准备，拒绝回答孩子提出的问题，孩

子在好奇心的驱使下，可能从互联网、书籍或其他途径来获得想要知道的知识，很可能会受到误导。专家指出，父母应该对孩子潜移默化地进行性教育。健康的性教育不仅关系到孩子的身心健康，也关系到孩子的成长发育。因此，及早地对儿童进行性教育十分必要。那么，儿童性教育应该从何时开始呢？《世界儿童教育周刊》报道，加拿大儿童心理教育学专家斯莉特·凯伦博士认为，应该从一生下来就开始。这是因为性教育比一般的“早期教育”更为重要，如果在婴幼儿时期一旦形成错误的性观念，就很有可能毁掉一个人一生的正常性生活。潜移默化地进行性教育 婴幼儿听不懂父母的话，怎样进行性教育呢？这段时期一般可通过各种非语言和语言的潜移默化途径来进行性教育。例如，给孩子取名字、买衣服、购玩具以及选择游戏方式等，都具有很强的性教育意义。你给一个女孩子购买了一个扎着蝴蝶结、衣着华丽的女娃娃，给一个男孩子则买个打着领结、一身燕尾服打扮的小绅士娃娃，无形之中你就是把“性别角色”的观念灌输给孩子了。但是，假如你把男女性别给混淆搞乱了，你给一个男孩子取了一个女孩子的名字，穿的、玩的都是女孩子的东西，甚至教的也是女孩子的儿歌和话语，那么，这个男孩子长大以后就有可能“女子味”十足，甚至还可能导致心理病态，不能很好地适应社会生活。谨防儿童发生“性抑制” 由于长期受一些非科学的旧观念的影响，造成儿童“性抑制”的情况相当普遍和严重。例如，当父母看到幼儿玩弄、抚摸外生殖器时，通常就会急忙责骂：“不许摸！”或用手强行推开，“脏，脏，脏，不要摸它！”等等。须知这样一来，就会让孩子从小形成一种错误的观点：生殖器是脏的，见不得人的。从而凡是与生殖器有关的事情就必须抑制，否则就会受到指责或惩罚。长此下去，会使孩子形成有害的“性心理”。有的孩子有了这种“性抑制”的心理，可能一生都难以改变。当孩子在洗澡时或在其他场合看到人的裸体，问到生殖器“这是什么？”、“那是什么？”时，父母就应把其医学名称告诉孩子，而不要有什么惊讶和隐瞒。应该像告知孩子“这是舌头”、“那是鼻子”一样自然。正确解答幼儿提出的性问题 父母常会听到自己的孩子问及“我是怎样生的？”这个问题。然而，历来父母给予的回答大都是错误而有害的。如有的父母“哄骗”孩子说：“你是爸爸、妈妈捡来的。”“你是小天使，从天而降的”……父母应该怎样作出真实而自然的回答呢？一般可依据儿童的年龄和接受能力来作出简要的回答。通常可以从动植物说起，最后再讲述到人的性与生殖。如以讲解“母鸡下蛋，孵出小鸡”为例，作一个浅显的回答：“我们常吃的鸡蛋，可以孵出小鸡来，在妈妈身体里有一种很小的像蛋那样的东西叫卵子，在爸爸身体里也会产生一种生儿育女的小东西叫精子，当爸爸的精子和妈妈的卵子结合以后，就会变成一个受精卵，这个受精卵很小，在妈妈身体内经过10个月后，就会长大成一个小孩。到那时，妈妈的肚子一收缩，小孩子就会从妈妈下身的通道里出来。”斯莉特·凯伦博士认为：对幼儿提出的性问题应有问必答，但不必主动去问和主动去讲。我们“从0岁开始”对孩子进行性教育，关键在于自然地培养孩子们正确的性观念，为他们下一步学习具体的性知识作好心理准备。

(060626) 从从容容与孩子谈性 一云南生育健康研究会培慧小组走过十年探索路 中国妇女报 记者梁苹 无论在何种文化背景下，谈“性”都不那么容易。1996年，一群同为

母亲的云南生育健康研究会会员为了给自己的孩子进行性知识的启蒙聚在了一起，希望利用研究会的资源，打开这个在中国文化背景下难以逾越的禁区，也由此开始了她们探索的历程，一走就是10年……认识你自己——打开禁区第一道门 为研究会会员即将进入青春期的孩子开设性健康培训的动议，与研究会所倡导的健康理念和学术空气分不开。在研究会的学术讨论中，出现了很多“另类”的声音：我们的研究是为了写论文、出书，还是走出学术的“象牙塔”使普通人真正受益？于是，让关注健康问题的研究会会员也能受益于自己的研究成果，成为大家的共识。而身为母亲的一群女会员，首先想到的是即将进入青春期的孩子需要接受系统而科学的性健康教育，这个在中国文化背景下讳莫如深的话题，即使是从事医学研究的人，当他们面对自己的孩子时，也不知道从何谈起。这个难题被一位困惑的母亲提出来，立刻引起了大家的共鸣，于是有着同样需求，又富有爱心和使命感的母亲们自然地组合了，在研究会的支持下，“认识你自己——打开禁区的第一道门性健康培训”在医学院一间普通的教室里拉开了序幕。让她们意外的是，孩子们在接受这个别开生面的培训时表现出了坦然自若的大气。面对那些性器官的名称，他们不仅不回避，准确使用科学名称，而且在理解上表现出了丰富的想象力和孩子气的童真。例如在解释“子宫”时，孩子们给出的答案是“孩子在妈妈肚子里居住的宫殿”。培训时孩子们的母亲都在场，每个孩子都在妈妈的目光注视下，妈妈们各自怀有不同的心情，几乎每个人都担心培训内容给自己的孩子带来负面影响。这其实也是她们作为培训的设计者和执行者最担心的事情。然而，孩子们的反应却给了她们极大的肯定和鼓励。这种鼓励产生的效应是全方位的。首先是培训取得了预期的成功，这些孩子在科学地认识了自己的身体之后，以一种平和、正常的心态面对随后到来的青春期在生理上的变化，避免了上一代人经历青春期时由于蒙昧无知带来的烦恼和焦虑；其次，培训者和目标人群产生了一种良性的互动。在取得第一次培训经验的基础上，她们始终关注孩子们的需求，培训内容不断丰富，从生理到心理到社会适应，从课堂学习到野外拓展训练，培训形成了系列，孩子们在这个与学校完全不同的小环境中完成了自我认识、自我肯定，自我尊重的启蒙，得到了伴随他们健康成长的价值观念和 life 技能。如今，这些孩子全都进入大学，拥有健康的人格和较强的适应能力。母亲们意识到自己正在做的是一件能够让孩子们受益终身的有价值的事情，因而自然地组成了青春期性教育的专门小组（现更名为培慧小组），将已经取得的成功经验应用到更多孩子身上，期望使更多的孩子在多梦的季节多一些快乐，少一些烦恼。为农村少女撰写性教育读本 2000年，受福特基金会资助的《农家女百事通》杂志社编辑找到她们，希望能为农村少女撰写一本通俗的性教育读本。尽管有过性健康教育培训的经验，但那是针对城市孩子做的，而且在以往所收集的资料中，也大多是把城市孩子作为研究对象的。于是，在检索了大量资料和研讨的基础上，她们走访了很多农村中小学，在进行了大量的问卷调查、参与式需求评估和个人访谈之后，她们了解到了农村少女最关心的问题 and 她们所喜欢的表达方式，由此确定了本书的框架和写作特色。她们始终把握少女们的需要，书中的很多问题就是在调查访谈中少女们直接提出来的。初稿完成后，她们请来了曾经接受过培训的女孩子提出她们的意见和建议，将她们认为不合适的内容和文字进行了全面的修改和调整……该

书出版后，得到了业内人士的高度评价，专家们认为书中的内容广泛涉及了我国社会转型时期家庭、婚姻、伦理、道德、情感等领域，使阅读者不仅能够从书中汲取生理卫生知识，而且能够满足她们的心理需求、从情感困惑中走出来。只有不想做的，没有不能做的。2003年底，在香港社区伙伴资助下，她们开始了“农村小学预防性侵害”项目。尽管近年来在未成年人中开展性健康教育的呼声越来越高，一些学校也积极探索可行的性教育方式，但对于观念相对保守的农村学校来说，由老师在课堂上对学生“谈性”，仍不是一件容易的事。2004年春季开学不久，她们的项目点—云南省石屏县龙朋镇5所小学的20多位教师接受了第一次培训。“认识自己的身体”、“认识身体的隐私部位”、“分辨不同的身体接触”……培训课程中反复出现性器官的名称，尽管培训者一直试图活跃气氛，并从始至终采用参与式方法，但仍能从老师们目不斜视、正襟危坐的姿态中看出他们的尴尬和被动。以往课本上每当出现与“性”沾边的内容时，老师采取的办法是让学生自己看，从不在课堂上讲。可按项目预期的目标和时间表，老师们被要求在回去后的4周内必须在自己的班级开课。老师们一再强调自己的担心：家长会责难，而且整个社区都会不理解，甚至拷问老师的道德品质，因为的确发生过某校老师因为给学生上了性知识课被叫成了“黄（色）老师”的事情。因为项目不给老师留退路，老师们硬着头皮上阵了，但多数老师选择了课程中的“友谊和关系”、“自尊自爱”、“有效保护自己不受艾滋病侵害”等部分，有关性的内容或回避或轻描淡写地一带而过。没想到，学生们在课堂的提问直指敏感的“性”：“艾滋病是性传播的，什么是性传播？怎么传播？”“男生和女生为什么会不一样？”老师无法回避，于是干脆放开了讲，问题反而简单了。培训教师—教师授课—家长访谈—编写教材，老师们从被动到主动，从回避到热情的参与使项目得以顺利进行。2005年5月中旬，项目小组回访5所学校的师生，得到了积极正面的反馈。这个项目的成功实施说明，无论是城市孩子还是农村孩子，都希望从课堂上学习性知识，而老师们所说的一些所谓的压力并不都是事实，更多的是自己的担心；有一些压力可能是事实，但被人为地放大了。对农村孩子谈性真正的难点在于老师内心的障碍，一旦消除这种心理障碍，再选择适当的教育方式，性健康知识的传播就会实现。

#### **(071120) 约会教育”是一把“青春期雨伞” 中国妇女报 雷泓霁**

上海市东中学日前给学生新开了一门“敏感”课程—“约会教育”。上午9时40分，这堂名为“如果·爱”的课甫一开始，探讨的便是“爱是什么”这样一个难题。虽然女生普遍对这一话题稍显矜持，但跟随着授课老师邵亦婵的引导，在互动讨论和游戏中，课堂气氛渐渐活跃了起来。记者注意到，这节课的内容涉及不少当下学生中间的敏感话题，比如对老师产生了好感怎么办，是不是应该向心仪的异性表达等等。长期以来，爱情一直是教育界的禁区。传统儒家思想、封闭思维总将爱情当作“教育洪水猛兽”，学校态度非常鲜明，充当情感卫道士和“道德警察”。比如有学校针对恋爱现象作出严肃纪律，“在操场、公寓楼前搂抱、在校园牵手要受到开除学籍、留校察看、记过等处罚。”铁面无私，高高在上，强迫服从，不予信任，试图为学生架起一道纯洁的“情感高墙”。因为青春期的孩子多具有感情冲动，实际效果却不敢恭维，学校的规定成为纸上谈兵。缺乏这种“心理滋养”，



也不利于孩子和谐人格和健康性情的形成。苏霍姆林斯基曾说：“拥有爱情只能是在你成为有智慧的人的时候。这个智慧包括了责任、理智、机敏、宽容、安全……等等很多东西，不在乎你年龄多大，如果你拥有这些东西你就可以拥有爱情。”中学开设“约会教育”课程后，让孩子在各种课程讲解中对爱情的“将成为赋予生命的永不衰退的使人类世代相传的纽带的内涵”进行深入了解，对各种早恋思维进行理性客观的判定，而是让学生自己在教育熏陶中得到方向性引导，在认知和思考中得到进步升华，将情感和责任、宽容、成熟、理智、机敏结合起来，摆脱生物性，融入社会性；摆脱随意性，融入责任感。学生自我责任意识和君子风度就能得到激活，更容易取得教育效果的科学的教育行为，更有助于形成理性、开放和健康的人生认知以及心理世界。有人会说，这会给孩子造成“早恋教唆”，笔者认为这种担心是多余的。现代社会早已进入开放和信息社会，各种影视媒体对爱情和约会的缠绵报道早已经对孩子形成“无声教导”。也就是说，社会客观给孩子提供的信息已经远远走到了教育信息的前面，如果教育判定和引导仍然固守陈规我行我素，拒绝认同，我想这对于孩子的时代性发展是不利的。因为教育措施背离了教育对象的愿望和需要，也难以形成良好的教育效果。

还有人认为，学校和教师应该保持严肃的社会形象，不能将爱情、约会等不严肃的内容当作教育工具。可是现在孩子的性心理已经非常成熟，这时候，如果仅仅用教鞭进行鞭挞，霸道强硬，而淡忘了教育规律的亲切柔和，对症下药，鲜活生动，学生同样会抛弃你。所以，保持教育效能良好优秀，就不能拒绝“约会教育”。据报道，性教育发达的芬兰，孩子从小接受避孕套之类的性教育，学生的性保护意识很高，性问题性伤害反而世界最少。青春雨季，带上一把“爱情雨伞”，才能走得更为稳健、健康。